

令和7年第4回東北町議会定例会会議録

令和7年12月9日（火曜日）午前10時00分開議

○議事日程（第2号）

日程第1 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 一般質問

◎一般質問

○議長（田嶋 悟君） 日程第1、一般質問を行います。

一般質問の通告は3名であります。

通告順に発言を許します。

3番、大崎昭子議員は、一問一答方式による一般質問です。大崎昭子議員の発言を許します。

〔3番 大崎昭子君登壇〕

○3番（大崎昭子君） 3番、大崎昭子です。質問に入る前に、師走の多忙のところ、昨夜の地震で被害に遭われた方々に心よりお見舞いを申し上げます。まだまだ片づけに追われている方々もいらっしゃると思います。特にお近くに高齢者や独り暮らしの方々がいらっしゃいましたら、皆様、どうぞ声がけをして助け合いましょう。

それでは、議長のお許しをいただき、一問一答にて質問させていただきます。

我が町は、今年合併20周年ということで、大変多くのイベントがありました。中でもイベントの目玉でもありました湖水まつりにおけるブルーインパルスの展示飛行は、近隣の市町村に大きなインパクトを与え、さらには我が町に航空自衛隊の分屯基地があるということを改めて認識することができました。そして、今年は商工会が合併し、新東北町商工会としてスタートした年でもありました。青年部、女性部をはじめ各部会や会員の皆様のご協力がイベント成功の立て役者であることは言うまでもありません。

そんなイベントの多い我が町では、様々なお祭りが開催されています。その町のまつり事業についてから2点、そのまつり事業に大きく関係している観光協会についてから2点質問いたします。

町のまつり事業についての1点目、我が町では各地で様々なお祭りが開催されていますが、各祭りの今年の来場者数と増減の傾向をお聞かせください。

続いて、我が町では合併前から両地区で開催されているお祭りを現在も引き続き開催していますが、人口減少や人手不足により、開催側に大きな負担が生じているように感じます。

2点目として、現在開催されている春まつり、秋まつり、日の本中央まつり、産業と文化まつりを集約、または見直す考えはありますでしょうか。

次に、観光協会についてです。お祭り等のイベントは、町に経済効果をもたらす大事な観光事業です。その事業の要となるのが観光協会であると考えます。

1点目として、観光協会として町のイベントや飲食店等のPRをどのように進めているのかお聞かせください。

続いて、観光協会は現在、町役場に事務局を置き、活動していますが、今後別の場所に事務所を構え、独立していくべきではないかと考えます。

2点目として、観光協会を独立させる考えがあるのかお聞かせください。

以上、ご答弁のほどよろしく願いいたします。

○議長（田嶋 悟君） 町長。

〔町長 長久保耕治君登壇〕

○町長（長久保耕治君） それでは、3番、大崎昭子議員のご質問にお答えをいたします。

一般質問通告のありました質問事項1の町のまつり事業についてお答えをいたします。質問要旨の1点目、各まつりの今年の来場者数と増減の傾向をお聞かせくださいについてであります。初めに桜まつりですが、4月20日から5月5日までを祭り期間とし、小川原湖公園とみどりの大地とロマンの森公園で各種イベントを開催し、延べ2,200人の来場者にお越しいただきました。

次に、湖水まつりですが、7月26日から27日までの2日間で開催され、今年には町制施行20周年記念事業ということで、ブルーインパルス展示飛行、北部航空音楽隊の演奏会、小島よしおショーといったにぎやかな、そして華や

かなイベントが盛りだくさんだったことから、町内外延べ1万8,000人のお客様にお越しいただき、盛り上げていただきました。

次に、秋まつりであります。8月29日から8月31日までの3日間で開催されました。初日は、雨天により一部内容変更がありましたが、中身と最終日には天候にも恵まれ、町内会の参加者を含む延べ1万人の方々にお越しをいただきました。

次に、日の本中央まつりであります。9月5日から9月7日までの3日間で開催されました。一時雨天により催事のキャンセルもありましたが、おおむね予定どおり開催され、最後のクライマックスでは、花火と燃え盛るたいまつと東翔太鼓の幻想的な演奏が会場の一体感を演出し、延べ2万1,000人のお客様に感動と喜びを与えたものと思っております。

次に、生き活き産業文化まつりであります。11月1日から2日までの2日間で開催されました。初日は、暴風雨による悪天候となり、予定していた催しなどが一部変更となりましたが、2日目は何とか予定どおり開催することができました。来場者数も延べ5,000人と大幅減となりましたが、たくさんの方々に楽しんでいただくことができました。

また、今年度の各種行事は、町制施行20周年記念事業の関連事業として実施いたしており、SNSやチラシ、ポスターなどでも十分に周知してきたこともあり、来場者数につきましては、ここ数年と比較しても増加傾向でありましたが、イベントはどうしても天候に左右されますので、そういった部分においての来場者数の減少はあったと思っております。

しかし、今年は雨天による内容などの一部変更はあったものの、中止されることなく開催され、また町外からたくさんのお客様にもご来場いただきました。

今後においても、イベント内容を創意工夫し、多くの方々に東北町にお越しいただけるよう努めてまいります。

次に、質問要旨の2点目、現在開催されている春まつり、秋まつり日の本中央まつり、産業と文化まつりを集約または見直しをする考えはありますかについてであります。春まつりは小川原湖公園とみどりの大地とロマンの森公園を主会場に実施しておりますが、このイベント自体がそれぞれ上北地区、東北地区の両地区で似たようなイベントを実施しているものではなく、春まつりの

中の一つのイベントとして、イベントごとに会場を設定し、お客様に楽しんでいただいているものであるため、特段祭り自体を集約するものではないというふうに考えております。

次に、秋まつりと日の本中央まつりについてであります。これにつきましては、9月定例会の一般質問においても同じようなご質問をいただき、お答えを申し上げますが、上北地区の秋まつりは、各町内会及び上北中学校の山車運行がメインで、仮装流し踊りなど、町内商店街通りを練り歩く祭りで、一方日の本中央まつりは山車運行がなく、各町内会が流し踊りや神楽で商店街を練り歩き、また舞台による数多くの催しがメインとなっている祭りとして承知しております。

これら両地区の祭りは、この土地、この地域の伝統文化としてこれまで受け継がれてきたものであり、町としては地域の判断を尊重するもので、集約については特にお話しできるようなものではないと認識をしております。

なお、各地域の各種団体が行うイベントについては、それぞれの実行委員会において決定されるものと思っております。

また、生き生き産業文化まつりについてであります。8月5日に開催された第1回実行委員会の中で開催場所などが話題に上がり、集約を含めて協議をいたしております。

協議の結果は、今年度の祭りにお越しいただいたお客様や、祭りに出店してくださった関係者のご意見を伺うことになったため、祭り期間中にアンケート調査を実施することといたしました。

アンケートの結果は、現在集計中でございますが、今年度中に開催する第2回実行委員会において、結果を基に今後の展開を協議していく予定となっておりますので、ご理解を賜りたいと存じます。

次に、質問事項2、観光協会についてお答えをいたします。質問要旨の1点目、観光協会として町のイベントや飲食店等のPRをどのように進めているかお聞かせくださいについてであります。観光協会は地域の観光振興を目的とした組織であり、地域の魅力を広く発信し、観光客の誘致を促進する役割を担っております。

具体的に申し上げますと、情報発信とプロモーション、観光資源の整備と管

理、地域との連携協力、観光客の受入れとサービスの向上、地域経済の活性化など、これらの役割を通じて地域の魅力を最大限に引き出し、持続可能な観光振興を実現することが観光協会の役割であると認識いたしております。

そうした中で、東北町観光協会も町の魅力を広く発信し、地域の活性化を図るために様々な取組を行っております。

町のイベントの広報活動については、観光協会のSNSを活用し、情報発信を積極的に行っております。また、ポスターやチラシの作成、配布を通じて地域住民や観光客に周知をしております。さらに、地元メディアや道の駅などとも連携し、情報の拡散に努めているところです。

飲食店等のPR活動については、地域飲食店の魅力を伝えるために、飲食店の紹介記事や特集を作成し、観光協会のSNSで紹介をしたり、観光客向けのパンフレットやマップに飲食店情報を掲載し、訪れる方々に便利にご利用いただけるよう工夫しております。

地域との連携と協力については、町の商工会や各種団体と連携し、共同でイベントを企画、実施しながら、地域全体の魅力を一層高めることを目指しております。

次に、質問要旨の2点目、観光協会を独立させるお考えはありますかについてであります。現在東北町観光協会は役場商工観光課の所管で、商工観光課の職員が事務局を兼務し、運営からイベントの実施まで、全ての業務を担っております。

議員がおっしゃるご質問の観光協会を独立につきましては、確かに組織の自主性や効率的な運営を促進する観点から重要な課題であると認識しております。

一方で、独立となると、人材の確保と育成、運営体制の整備、資金調達と補助金の活用、地域住民、そして関係者との理解と協力など、様々な部分において考慮すべき内容の検討が必要であることも承知いたしております。

いずれにいたしましても、観光協会の運営に必要な人材の確保や運営体制などが課題となりますので、観光協会の会員や地域住民の意見を反映させながら、最適な運営体制を模索してまいりますので、ご理解を賜りたいと存じます。

以上、答弁といたします。

○議長（田嶋 悟君） 大崎議員。

○3番（大崎昭子君） ご答弁ありがとうございました。

各祭りの来場者数についてですけれども、我が町はお祭りがゴールデンウィーク前から11月初めの文化の日あたりまで、約半年間お祭りが様々開催されています。今ご答弁いただいたお祭りのほかに、美味満彩祭りであったり、ビール祭りであったり、そういったのを含めると、最低でも1か月に1つはお祭りがあるような、お祭りの非常に多い町だなというふうに思っております。

来場者数が、春まつりと生き活き産業文化まつりは会場が広く存在しています、複数箇所で開催されているのですが、秋まつり、日の本中央まつりというのは1か所の場所で開催されているというお祭りではないかなと思っております。1か所に集中して開催している秋まつりや日の本中央まつりのほうが、町民の方々がお祭りに参加していますので、来場者もそっちの祭りのほうがすごく多いのではないかなというふうに思っております。

やはり子供たちが多く参加する関係上、町内の人たちがその祭りのほうにたくさん足を運んでくれているのではないのかなというふうに思いますが、春まつりとか生き活き産業文化まつりは、どちらかといえば町外の方に来てほしいお祭りなのではないのかなと。秋まつり、日の本中央まつりは、町内の方々に他の楽しんでほしいお祭りというふうなイメージを持ちますけれども、町としてこのお祭りやイベントを町民向けもしくは町外の人向けというふうな感じで開催しているのか。今のこの来場者数が町内の方、町外の方の割合が大体どういう感じになっているのか、もし分かりましたらお知らせください。

○議長（田嶋 悟君） 町長。

○町長（長久保耕治君） 大崎議員にお答えをいたします。

大崎議員のほうから、いわゆる町内向け、町外向けというお話がございましたが、祭りに関しては全般的に、これは町外向けです、これは町内向けですというふうなことは、区別というか、線引きをしているわけではありません。できるだけイベントを増やして、様々な方にお越しをいただいて、町内の方々はまた東北町のよさを再認識していただく、町外の方々には、東北町の新たな部分を発見してもらおうというふうな形で行っているところでございますが、今大崎議員からそういうイメージがあるというふうにご指摘をいただいたことは、いわゆる内在的なお話で申し上げますと、何となくそういうふうなPRの仕方

になっているのではないかなというふうなご指摘とも捉えられます。そういった部分で、例えばPRの仕方を見直していかなくてはならない部分もちょっとあるのかなと思っております。

そういった部分で、町民の方々、またお客様がそういったイメージをお持ちになっているのであるならば、もう少し創意工夫しながら進めていかなくてはならないなと今思ったところでございます。

町内、町外の来場者の皆さんの割合については、詳細でございますので、商工観光課長のほうからお答えを申し上げます。

○議長（田嶋 悟君） 商工観光課長。

○商工観光課長（甲地尚彦君） それでは、お答えいたします。

先ほど町長もお話ししたとおり、町民向け、町外向けということはございません。たくさんの方に来ていただくということを目標にイベントを実施しております。

そこで、お客様にたくさん来ていただいて楽しんでいただき、そして東北町をもっと知っていただきたいという、そういうイベントでありますので、また町内、町外からどれくらいのお客様にお越しいただいているかということについてです……割合でした。大変失礼しました。

町内、町外からどれくらいのお客様にお越しいただいているかにつきましては、はっきりした人数はちょっとお答えできませんが、湖水まつりや日の本中央まつりなどは、町外の方々が大体5割程度で占めていると。また、秋まつりや生き活き産業文化まつりなどは、町外の方々が2割程度と推測いたしております。

以上でございます。

○議長（田嶋 悟君） 大崎議員。

○3番（大崎昭子君） ありがとうございます。町内の方々が参加しているお祭りのほうが、来場者数が多いということは、やっぱり町内の方々にはより多くPRがされているのかなというふうに感じますが、今町長もおっしゃいましたが、たくさんの人に楽しんでほしい、町内外関係なく楽しんでほしいということは、そのお祭りやイベントに向けてのPRというものが非常に大事になってくると思うのですが、このお祭り、イベントにたくさんの人たちに来てもらう

ために、町でその宣伝等、どういうふうな形でしているのかをお聞かせください。

○議長（田嶋 悟君） 商工観光課長。

○商工観光課長（甲地尚彦君） お答えいたします。

町では、多くのお客様にお越しいただくために、情報発信に力を入れております。具体的には、災害時や緊急時の防災行政無線のほか、広報紙や観光リーフレット、町のホームページを活用しております。また、若年層を中心に利用が多いフェイスブックやSNSも積極的に活用し、多角的な情報発信を行うことで、参加者の増加と地域の活性化を図っております。

以上でございます。

○議長（田嶋 悟君） 大崎議員。

○3番（大崎昭子君） ありがとうございます。町内の方々には、広報であったり、今流れている東北町テレビであったり、防災無線であったり、そういう呼びかけでも行き届いているから、たくさん来ていただいているのだと思いますが、町外の方々には、やはり今はSNSが必須な時代になっていると思います。最近では、職員の方々がSNSでたくさん情報発信をしてくださっています。そういったのを見て、東北町のお祭り、イベントに来ていただいている方もたくさんいらっしゃると思いますので、そういったのをどんどんやっていってほしいと思います。

しかし、町外の方でもSNSに関わらないというか、そういうのがあまり得意ではない年配の方とかもいらっしゃいます。そういった方々にどういったアプローチをしていくか、そういうのを模索しながら、たくさん宣伝して、我が東北町を宣伝できるように、来場者がもっとたくさん増えるように努めていただければなと思います。

次の質問に行きたいと思います。2点目のお祭りの集約、見直しの件です。ご答弁の内容は、春まつり、秋まつり、日の本中央まつりは集約は考えていない、生き生き産業文化まつりは集約を協議していきたいということでよかったですね。

秋まつり、日の本中央まつりの集約については、やっぱり地域の方々の思いもでございます。地域の意見を尊重するというご答弁でしたのですが、この件に

関しまして、実際このお祭りに参加している、関係している方々、町内会や関係者の方々から、この集約するや、見直しするや、そういうことを何か意見を聴取したことがあるのか、もしあるとしたら、どのような意見があったのか、分かりましたらお聞かせください。

○議長（田嶋 悟君） 商工観光課長。

○商工観光課長（甲地尚彦君） お答えいたします。

去る11月の25日でございます、東北町秋まつり事業報告及び検討会が開催されました。令和7年度の事業報告と令和8年度に向けての改善点などが話し合われております。その中で、秋まつりと日の本中央まつりの集約について、各町内会、関係者などからご意見を頂戴いたしております。

内容といたしましては、これは地域の伝統である祭りで、これまで受け継がれてきたものであり、両地域の活性化に必要不可欠なものというご意見をいただいております。

以上でございます。

○議長（田嶋 悟君） 大崎議員。

○3番（大崎昭子君） ありがとうございます。確かに秋まつり、日の本中央まつりは、各両地区の子供さんたちも参加しますし、秋の五穀豊穰であったり、そういう神事もございますので、集約をしていくのはふさわしくはないのかなということは理解しております。

しかしながら、このままでは秋まつりは上北の祭りだ、日の本中央まつりは乙供の祭りだというイメージがいつまでたっても払拭されないのではないのかなというふうに考えます。せつかく町が合併20周年、新しい東北町がスタートしたわけですから、例えばその内容の中の流し踊りは交流してやろうとか、仮装は全地区からエントリーしてもいいよといった交流、両地区が交流できるような中身の見直しというのができれば、さらに活性化が進むのではないのかなというふうに考えますが、その辺りはいかがでしょうか。

○議長（田嶋 悟君） 商工観光課長。

○商工観光課長（甲地尚彦君） お答えいたします。

大崎議員が言うように、まさに集約はなかなか困難であります、流し踊り、仮装パレードなどの地域交流は賛成という意見を11月25日の事業報告会のとき

にいただいております。ですから、このことから令和8年度に向けての数々のご意見や改善点などを集約して、これまで以上に地域活性化につなげていけたらと思っております。

日の本中央まつり、秋まつり、両方の祭りに両地区から仮装とか流し踊りが出られるように話し合いを続けていきたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（田嶋 悟君） 大崎議員。

○3番（大崎昭子君） ありがとうございます。一つに集約することはできなくとも、これからはやはり交流をしながら、どちらの祭りにも参加できるよというような受入れ態勢というのも必要になってくるのではないかなというふうに思っております。

日の本中央まつりのほうでは、乙供の町内の方々がおはやしをやったりとかというふうには開催されていますが、今は例えば甲地地区の子供たちが、その町内に参加していたりとか、今まではそのお祭りの関係する町内ではなかった子供たちが、子供たちつながりで、その祭りに参加したりというふうになってきております。それは、日の本中央まつりだけではなく、上北のほうの秋まつりも、乙供地区、甲地地区であったり、様々な地区からの子供たちが、私も参加してみたいなというのをぜひ受け入れられるような、そういったことを各町内会、お祭りの実行委員会の方々にもそういうことを呼びかけて、これからどんどん子供も減っていくわけです、でも子供がいるお祭りというのは、やはりおじいちゃん、おばあちゃんであったり、関係者がすごく盛り上げてくれると思いますので、子供を中心としたお祭りは、ぜひともたくさんの子供が参加できるように町内に呼びかけをしていただければなというふうに思います。よろしくをお願いします。

次に、生き生き産業文化まつりの件でちょっとお尋ねいたします。生き生き産業文化まつりは、中身の濃い、そして展示物がすごく多かったりするお祭りです。我が町の基幹産業は、農業でありますから、それを主としたたくさん展示コーナーがあったりしますが、正直中身がちょっと多過ぎるのではないかなというふうに考えています。しかも、会場も広く、分かれていますよね。全部を回るとしたら、果たしてどれぐらいの時間がかかるのであろうかという

ふうに思います。

私も産業文化まつりのほうにちょっと行かせていただきましたが、正直端から端までは見ずに終わってしまいました。2会場あって、展示物がたくさんあると、どこを見ていいのかなというふうに思いますので、せっかく我が町のおいしい野菜や牛肉、牛乳を町外の人に知ってもらったり買ってもらったりする大変いい機会だと思うのですけれども、やはり内容の多さの割に来場者数が伸びていないのは、そういった広い、多い、分かれているということが原因なのではないかなというふうに思います。

現在生き活き産業文化まつりについて、アンケートを集計中ということでしたけれども、今後に向けてちょっと提案をさせていただきたいと思います。産業と文化まつりを産業と文化を分けて開催したらどうかなというふうに考えます。産業は、東北町の基幹産業である農業が産業でありますので、農業を食の祭典として、東北町のおいしい野菜や、牛肉や牛乳等を使った即売もしくはそういうのをを使った郷土料理等を提供できる、販売できる、東北町を宣伝できるようなお祭りにするとか、文化のほうでは我が町では郷土芸能発表会とか、そういった文化部門でたくさん、いろいろ町民の方々も活躍されています。そういったところに文化の展示物を集約して、1か所で子供たちのものや、皆さん趣味でいろいろ作っているものを展示するとか、1か所に、コンパクトなところにそれを集約することによって、来た方々にステージイベントを見てもらったり、展示物を見てもらったり、そういう文化をまとめた文化の祭典という感じでやっていくのもいいのではないかなというふうに考えますが、町長はどのようにお考えでしょうか。

○議長（田嶋 悟君） 町長。

○町長（長久保耕治君） 大崎議員にお答えをいたします。

大崎議員のほうから、何か大変すばらしいご提案だなというふうに今聞かせていただいております。

まず、合併して20年たちました。恐らく20年前とは状況が大分違うという形の中で、20年間同じ形で来ている部分において、多少の改善が必要であろうなという思いで今回アンケートを取らせていただいた部分もございます。当然アンケートを取ったものですから、アンケートの様々な意見等をしっかり分析を

しながら、今後の祭りの在り方について、しっかり検討していかななくてはならない、そういった過渡期に立っているものと思っております。

今大崎議員がご指摘のように、よりよい祭りにしていったって、町内の方々のみならず、町外の方々にもお越しいただくような魅力的なものをいろいろとつくっていかなくてはならないなど改めて再意識したところでございます。

その上で、今大崎議員からご指摘あったことも含めまして、今よく取り沙汰されているのは、会場が大きいこと、2か所に分かれていることということでございまして、そういった部分の中で、ある会場のほうは人が来ているけれども、ある会場は来ていないとか、いろいろなご意見を口頭でいただくことがるございました。そういったことと、アンケートの結果の整合性をしっかり把握をさせていただきながら進めていただくことと、今大崎議員がおっしゃったような、いわゆるくくりということも、一つ今後の在り方ではあるのかなというふうに、今お話をいただいて、ちょっと考えているところであります。

しかしながら、しっかり分析してみますと、当然メリット、デメリットがあって、何よりもお客さんが不便に感じてしまったり、何といたってもお客様のためのお祭りだというふうに考えておりますので、できるだけ来やすいようなことも、せつかくですので、改善をするのであるならば、しっかりと考えて、これから10年、20年はそういったスタンスでやっていけるような形に仕上げなければなというふうに考えております。

そういったことをしっかりと精査しながら、本当に360度、様々な角度で今までの既存のやり方に変な意味でこだわることなく、新たな取組も踏まえて、これから検討してまいりたいと思っておりますので、これからもそういった前進的なご意見をいただければと思っておりますので、ご協力方よろしくお願いいたします。

以上です。

○議長（田嶋 悟君） 大崎議員。

○3番（大崎昭子君） 前向きなご答弁をありがとうございます。

我が町には、農協さんも2つ存在していますので、やはりご協力いただいている農協さん等も含めた形で協議していただければなというふうに思います。ありがとうございます。

次に行きたいと思います。続いて、観光協会についてでございます。観光協会、我が町のイベントや飲食店のPRについてですけれども、ポスター、チラシ、さらにはSNSを駆使して情報の拡散をしていただいております。おまつり事業のときにも触れましたけれども、町内の方々は広報や東北町テレビがありますけれども、町外の方々が我が町を知るには、やはりSNSやメディアがメインになると思います。小川原湖を中心とした観光地としての東北町を宣伝するためには、町外、県外の方に知ってもらうことが鍵になるのではないのかなというふうに感じております。

SNS、インスタ等はイベントごとにまめに更新されているのですが、観光協会のホームページの更新がどうやら追いついていないように感じます。SNSと同時に、速やかな更新をしていくべきではないかなと思いますが、ホームページの更新等についてどのように認識されていますでしょうか。

○議長（田嶋 悟君） 商工観光課長。

○商工観光課長（甲地尚彦君） お答えいたします。

ご指摘のとおり、確かに観光協会のホームページは、情報の発信において重要な役割を担ってございます。現在SNSを中心に情報発信を行っている一方で、ホームページの更新が遅れているという点については、重々私たちも承知しているところでございます。

今後は、ホームページの更新体制の強化を図りながら、情報のタイムリーな掲載を進めてまいります。具体的には、定期的なコンテンツの見直しと更新を徹底することで、SNSと連動した迅速な情報提供を実現してまいりたいと思います。地域の皆様や観光客の皆様にとって、より便利で信頼性の高い情報源となるよう努めてまいりますので、ご理解願います。

以上でございます。

○議長（田嶋 悟君） 大崎議員。

○3番（大崎昭子君） ありがとうございます。

観光協会としての重要な役割ですので、町外、県外の方々は特にホームページをチェックすると思います。ぜひとも迅速に対応していただくことをお願いしたいと思います。

次に、観光協会の独立についてでございます。観光協会の独立、近隣の市町

村等でも進んでいるようですけれども、近隣の市町村がどのように進んでいるか、分かりましたらお聞かせください。

○議長（田嶋 悟君） 商工観光課長。

○商工観光課長（甲地尚彦君） お答えいたします。

近隣市町村の状況でございます。三沢市は平成2年、野辺地町は平成26年、六ヶ所村と七戸町は平成29年、十和田市は令和元年に法人化、おいらせ町は来年度から法人化の予定となっており、六戸町、横浜町、東北町の3町が法人化なされていないという現在の状況でございます。

以上です。

○議長（田嶋 悟君） 大崎議員。

○3番（大崎昭子君） ありがとうございます。近隣で観光協会の独立が進んでいるのには、やはり訳があると思います。ほかの市町村でも観光に力を入れてきている証拠なのではないのかなというふうに思っています。

観光は、立派な産業です。観光産業です。この産業を町としても進めていくためには、ぜひともこの法人化をして、プロフェッショナルな人材で運営していくべきだと思いますが、町長はこの件に関してどのようにお考えでしょうか、お聞きかせください。

○議長（田嶋 悟君） 町長。

○町長（長久保耕治君） 大崎議員にお答えをいたします。

大崎議員ご指摘のとおり、先ほどもお話がありましたホームページの更新が遅れているとか、恐らくはそういった部分の中で、法人化をすることによって解決できることもあるのかなと思いますし、やはりPRでしたり、そういった部分に関しては、結構専門的な知識と技術が必要になってくると思います。

現在そういった部分で、SNSを商工観光課の職員の方が一生懸命努力して作成をしております。ともすると、そういったものをしっかり法人化することによって、より魅力的なものをつくることもできるのかなというふうにも考えておりますし、一つのストーリーとして戦略的な部分で、もう少し踏み込んでいけることもあるのかなとは思っております。

今まで当観光協会は、法人化をしてきませんでした。法人化をしてこなかったところの理由というのは、やはり人材の確保であったり、資金面の部分であ

ったり、また当然商工会が、以前は2つ、今は1つになりました。商工会であつたり、料飲食をなさっている皆さん、そういった方々の相互協力が、役場というところから法人化をすることによって、まとまるときはまとまるけれども、まとめる際に苦勞する部分もあつたりとか、そういったデメリットの部分があつて、なかなかそういった法人化には向かわなかつたのかなと思います。つまり法人化をするということは、内的な取組、能動的な取組が各関係団体に必要になってくると思うのです、今よりも。今は、役場の職員たちが一生懸命やっていることを、今度は法人化されて、それに関係している団体が自分たちが積極的にどんどん、どんどん取り組んでいくような取組が必要になってまいります。つまり団体の考え方としてのより成熟化したことが求められる可能性もございます。

そういったものを含めて、法人化のメリットをしっかりと皆で共有をしながら、今後東北町にとって、その法人化をすることが本当に素晴らしい未来につながっていくものか、また一部改良していくべきなのか。そういったことを関係している皆様方と話し合いをしながら、しっかりした枠でこれから進めていければなというふうに考えております。

いずれにせよ周りの地域がそういった形の中でうまくいっているのか、いや、ちよつとここら辺のデメリットが強調されているのかということも調べなくてはなりません。周りから聞き取りをしながら、東北町として最善の方向を選択してまいりたいと思います。その際は、関係している皆様方に改めてご協力を申し上げたいと思います。

以上、答弁とさせていただきます。

○議長（田嶋 悟君） 大崎議員。

○3番（大崎昭子君） ありがとうございます。ぜひとも遅れることなく進めていただければなというふうに思っております。

確かに検討材料がたくさんあると思います。人材の確保、資金面、商工会との関係性等々がいろいろあると思いますけれども、観光地としての東北町、小川原湖を中心とした公園であつたり、キャンプ場、そして隠れた名所の「まなか」であつたり、ホテルの里であつたり、東北町にはたくさん観光できる場所もございます。そして、何よりおいしい食材の宝庫です。そういったものを町

外、県外、さらには海外にもこの東北町という名をとどろかせることができるようなことを期待しまして、私の質問を終わらせたいと思います。ありがとうございました。

○議長（田嶋 悟君）　これで3番、大崎昭子議員の一般質問を終わります。